

(令和元年度追加分)

事故形態	災害の概要	公務災害防止対策の内容
墜落・転落	児童机を使って教室の背面の棚に上り児童作品を掲示した後、棚から児童机に降り、児童机から床に降りようとした時に、バランスを崩し、後方に転倒して、後方にあった別の児童機の角に後頭部を強打して、負傷した。	・掲示作業を行う際は、足下に物がないようにする。 ・掲示債作業を行う際は、隣接学級の担任に知らせておく。 ・高所での作業は無理をせず、他職員の協力を依頼する。
墜落・転落	棚の上で児童作品を掲示するため画鋲を強く押し込もうとした際、バランスを崩して足を滑らせ、棚から落下して、負傷した。	・掲示作業を行う際は、棚上の整理を行い、足下に物をいようにする。床面が滑りやすいと思ったら靴下等を脱ぐ。 ・高所での作業は無理をせず、同学年、管理職の協力を依頼する。複数の職員で安全に注意を払う。
動作の反動、無理な動作	授業を終え廊下を急ぎ足で歩行中、足場が濡れていたため滑り、転倒を防ごうと踏ん張った左足に大きく負荷がかかり、負傷した。	各階にモップを設置し、廊下が濡れている場合には直ちに拭き取る。
飛来・落下	教室の前で特別支援学級在籍の児童が仰向けになり、手足をばたつかせて暴れていたため、児童の足元に座り、児童に起きよう促したところ、児童が急に立ち上がってから、被災職員の屈曲した右手の上に座ったため、負傷した	暴れている児童への生徒指導においては、児童と距離を十分に取り、複数の職員で対応に当たる。
動作の反動、無理な動作	運動会で使用した入場門を体育倉庫最上段棚に乗せた後、棚の奥へきれいに収納するため、背伸びをした状態で左腕で強く押し込んだ際、左肩関節部分が切れたような感覚が伝わって、負傷した。	入場門の収納場所を現在の収納場所(整理棚の最上段)ではなく、最下段に移した。
激突	運動会で行われる騎馬戦の練習試合の審判をしていた際、騎馬から転落してくる生徒を支えようとして、自身の右腕と生徒の胴体が激しく衝突し、負傷した。	発生原因並びに対応策の週周知を徹底し、再発防止を図った。 対応として、機種同士がもみ合った際の勝敗を決める基準について早く勝敗が決まるようにルールを変え、まづ騎馬の数を減らし、審判担当職員の目の届きやすいように変更した。また、生徒には変更点の理解の徹底だけでなく、安全に対して更に留意して協議に臨むよう指導した。
墜落・転落	脚立によって中学校の駐車場通路に被さっている木の枝や蔓を切り落としていた際、バランスを崩して落下し、左手を地面に強打して、負傷した。	災害発生時の概要を運営委員会で報告し、職員会議で再度確認し、再発防止に向けた協議を行った。今後このような状況にならないよう定期的に伐採を実施していただくように市に要請し、教職員が伐採する必要があるときには複数体勢で行うことを確認した。
墜落・転落	帰宅のため駐車場に向かっている途中、鍵を職員室に忘れたことに気づき、職員室に戻っていた際、真っ暗で何も見えなかったため、側溝に落ち、左手を負傷した。	・翌日直ぐに現場周辺の状況確認を行い、教育委員会に連絡を入れ、人感センサーライトを2カ所設置してもらい、側溝には蓋を取り付けてもらった。 ・緊急な事案がない限り、勤務時間外に残って仕事をしないよう指導した。
その他	日課に従わない男児と話をしようとして男子居室に移動したところ、男児(16歳、自閉症スペクトラム障がい有)から殴られたり蹴られたりし、負傷した。	基本的な発達障害児の対応方法を再確認するとともに、今後は複数職員で対応する。
切れ・こすれ	町施設の除草作業中、手がバリカンの刃に触れ負傷した。	作業内容によっては業者に依頼する。職員が行う場合は足早周囲の安全確認を行った上で作業を行う。
飛来・落下	公園の草刈り作業中、使用していた刈払機の刃で型枠施行の一部である針金を切断し、その破片が履いていた長靴を貫通して右足首に刺さり、負傷した。	作業箇所においては予め危険物の有無について目視を行う。飛来物から体を防護するため、安全靴やゴーグル、グローブ等を着用する。足場の悪い箇所や高所での作業時には安全帯を使用する。
その他	住宅用火災警報器の設置状況調査中、玄関の呼び鈴を押そうと訪問宅敷地内に入ったところ、玄関から離れた犬小屋にリードで繋がれていた飼い犬が吠えかかってきたが、リードに繋がれているため玄関前までは来られないだろうと思っていた時に、突然犬のリードが外れ、逃げる途中で左下腿を咬まれ、負傷した。	・衛生委員会で対策を検討する。 ・動物がいるような現場は、大丈夫だろうと思ひ込みはせず、細心の注意を払い、安全を確保した後に現場活動等を実施するように所属長を通じて全職員に注意喚起する。
故意の加害行為	救急出動先で飲酒した男性に、緊急性がなく救急車での救急搬送をできない旨を伝えたところ、当該男性から胸部等を殴打され負傷した。	安全対策協議を実施し、危険予知訓練を実施するとともに、安全管理規程の遵守徹底を図る。
汚染血液による事故	救急搬送後、傷病者に使用した針を廃棄ボトルに押し込み蓋をしようとした際に留置針が右手第一指に刺さり負傷した。	・公務災害発生概要の周知及び検討会を実施した。 ・課内全職員に対する再発防止を注意喚起した。 ・廃棄ボトルの再考、購入、入れ替えを行った。

(令和元年度追加分)

事故形態	災害の概要	公務災害防止対策の内容
動作の反動、無理な動作	ロープブリッジの訓練中、ロープを持って訓練棟から下のステップに飛び降りた際、手からロープが外れ、右膝を負傷した。	安全衛生管理規程に定める安全衛生教育として、過去の事例等を参考に、被災職員と訓練指導者に対して、安全管理教育及び危険予知訓練を実施し、過密な訓練計画にならないよう指導した。
切れ・こすれ	土壌分析作業中、試薬を定量計り取るため、ガラス製オートビュレットの持ち手部分を引き上げたところ、持ち手部分が破損し、その反動で、欠けたガラス部分に右手が当たり、右手親指を負傷した。	次のことを所属内で注意喚起するとともに、 所属の労働災害事例集に登録し情報共有した。 ・使用前に亀裂等がないか確認すること。 ・使用時には厚手の手袋を着用すること。 ・オートビュレットが操作しにくい場合は別のものを使用すること。
切れ・こすれ	剪定枝を片付けるため、チェンソーを使用して剪定枝の細断作業を行っていた際、勢い余って路面で弾かれたチェンソーの上側の刃が左手小指の付け根を直撃し負傷した。	次のことを所属内で共有した。 ・必ずペアになって作業を行うこと。 ・チェンソーは必ず両手で保持して使用すること ・チェンソー使用時には皮の手袋、フェースガード及び保護衣を着用すること。
飛来・落下	道路維持作業で道路に落ちていたコンクリート殻を拾得した後、作業車に乗り込みドアを閉めたところ、シートベルトを締める前に、同僚運転手が車を発車させたため、身体のバランスを崩し、完全に閉まっていなかった車のドアが開き、車外へ落下、負傷した。	運転者が車両を発車させる際は、 同乗者へシートベルトの装着等の声掛け及び目視等を行い、安全確認を確実に実施すること、 車両をUターンさせる際は、より注意深く安全運転に留意することを徹底した。
はさまれ、巻き込まれ	機械のベルトの交換作業後試運転を行い、安全カバーを取り付けようとした際、惰性で少し動いていた回転部に右手が挟まれ負傷した。	回転動作完全停止確認後制御盤にて主電源ブレーカーを切り、作業を実施するようにした。
動作の反動、無理な動作	児童から、校舎昇降口のひさしに靴が乗ったため取って欲しいと言われ、脚立に乗って取っていた際、脚立上でバランスを崩し倒れそうになったため、脚立から飛び降り、着地した際に左足踵と胸椎を負傷したもの。	脚立を使用する際は複数人で作業し、脚立を支えてもらうなど 安全に配慮する。 高い場所にあるものをとる際には安定した足場を用意し、無理をしない。
切れ・こすれ	不燃ごみの収集作業中、ごみ袋から調理用はさみが飛び出ていることに気づかず左膝内側に当たり負傷した。	ごみ収集作業マニュアルの「再点検と職場労働安全委員会を中心に安全作業に対する意識の高揚を図った。 ・二人一組で作業をしているので、お互いの行動にも気を配る。 ・指さし呼称を徹底する。 ・作業は慌てず丁寧をモットーに行う。 ・袋の中身について安全の確認を行う。
激突	ごみ収集の作業中、集積かごの蓋が突然倒れて鼻に当たり負傷した。	収集する際の注意喚起を作業員間で行うとともに収集を行うときに慌てず確実に実施することを改めて周知した。
高温・低温の物との接触	調理室で麺を茹でる作業中、蒸気釜に左手が触れてしまい火傷した。	蒸気窯付近では作業スペースを十分に確保するとともに、調理作業中の移動台車の銅線を見直し、蒸気窯付近を通らないようにした。
高温・低温の物との接触	給食調理中、茹でためんを取り出そうとしていたところ、誤って左手にはめていた手袋の中に熱湯が入ってしまい左手を負傷した。	手袋は長いものを使用し、作業を複数人で行うようにする。
汚染血液による事故	ICU病棟において、入院患者にPICC挿入中、局所麻酔の針をリキャップする際、針サイズと異なるキャップに入れたため、キャップの先端から針が飛び出し、手指を刺し負傷した。	・不要なりキャップはしない。 ・リキャップ時に異なるキャップに戻さない。 ・リキャップする際は手で保持しない(置いた状態のキャップに注射器を差し込むように戻す。)
その他	担当する病棟の結核患者との看護処置での接触により、T-SPOT検査で陽性検査(潜在性肺結核)となった。	血糖測定の安全な実施方法を再周知した。